

御殿堰 大黒天便り



◆第五号◆

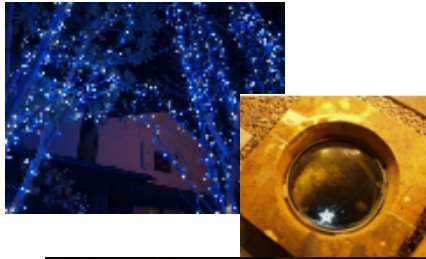
山形市中心市街地を流れる御殿堰。その豊かな水の流れを見守っているのが私「御殿堰大黒天」です。



「大黒天便り」では、わたし大黒天が御殿堰の歴史・季節の話題・生活の知恵など「なるほど!」と思っただけの内容をお伝えしていきたいと思っと思っています。今回は第五号です。

◆『イルミネーション点灯』

十一月十九日 十七時に『七日町大通り』十日町角く文翔館前の約一、五キロメートル街路樹に渡りイルミネーションが点灯されました。御殿堰では、白と青の灯りが幻想的に輝いています。通りに面した樹木・御殿堰施設内の蔵前の樹木は穏やかに灯り。井戸の底には、なんと星が輝いています。是非イルミネーションを楽しみに御殿堰へ足をお運びください。



～山形の冬の風物詩～
「第二十回 光のプロムナード2010」

◆『十二月十一日(土) ナイトバザール開催』

今年最後のお得が目白押し! 『七日町ナイトバザール Winter 2010』

七日町商店街が総力を挙げてお届けする、今冬最大のお買い得イベント「ナイトバザール」。当日限定の様々なお得サービスを用意して、皆様のお越しをお待ち申し上げます。水の町屋御殿堰では、岩淵茶舗・結城屋・庄司にてナイトバザール特別のサービス。岩淵茶舗・結城屋では店頭ワゴンセールも行います。※サービスの詳細は「ほっとなる通信」をご確認ください。ほっとなる広場では様々なイベントが十三時より開催されます。是非ナイトバザールへお越しください。

◆『御存知ですか?』福茶

お正月にいただく「福茶」を御存知ですか? 聞いたところによると、山形では馴染がないようです。福茶は簡単に言うと、玄米茶に黒豆や干した梅干・昆布が入っているものです。親戚が東京でお茶屋さんをしていたという話もあって、元旦の朝と節分の夜には欠かせないものとして私は育ってきました。福茶には次のような言葉があるようです。

天曆五年(951)京の町に疫病が流行し、村上天皇は空也上人に悪疫退散の勅命を下します。空也上人は梅干を添えたお茶を施し、効果を待たといわれます。これにあやかっつて、村上天皇は、毎年正月元旦に茶を服されたことが「福茶」の始まりとされます。これが朝廷の儀礼となり、更には庶民の習俗として定着しました。名前は、天皇が飲まれることから「王服茶」または「皇服茶」と呼ばれ、後に転じて「大福茶」や「福茶」と呼ばれるようになったようです。

◆『一月十日 山形初市』

山形初市は、山形の基礎を築いた戦国武将、最上義光の時代から続く伝統行事です。十日町にあった市神の祭りとして始まったとされています。

お正月ならではの縁起物の初アメ、カブ、だんご木、白、だるまなどの縁起物を買って帰るのが慣わしだったそうです。カブは同業組合の株にかけて商売繁盛を願う意味。だんご木はミズキの枝に色とりどりのだんごのふなせんべいを刺したもので、豊作への願いを込めているそうです。木工品は山形市郊外の特産品です。

1.4キロに及ぶ目抜き通りを歩行者天国にして、通りの両側に毎年約270もの店舗が店出し、毎年20万人前後の人が訪れているそうです。正月の雪が舞う中、びっしり並んだ露店から威勢のよい売り声が響き、家族連れなどでごった返す昔から残る風景の心とつです。皆様も是非「山形初市」にお越しください。

『年末年始 休商日のお知らせ』

御殿堰内 全ての店舗で元旦は休商日とさせていただきます。

■岩淵茶舗 十二月三十一日 九時半～十七時迄

十二月二日 九時半～十七時迄

■KEN OKUYAMA CASA 十二月三十一日 十時～十六時迄

十二月二日 九時半～十七時迄

■結城屋 十二月三十一日 十時～十六時迄

十二月二日 九時半～十七時迄

■庄司屋 十二月三十一日 八時～二十三時

十二月二日 十一時～十六時迄

■CLASSIC CAFE 十二月三十一日 十一時半～二十三時半迄

十二月二日 十一時半～

十二月三十一日、一月一日(休商)

十二月三十一日、一月一日(休商)

十二月三十一日、一月一日(休商)

十二月三十一日、一月一日(休商)

十二月三十一日、一月一日(休商)

十二月三十一日、一月一日(休商)

十二月三十一日、一月一日(休商)

十二月三十一日、一月一日(休商)

十二月三十一日、一月一日(休商)

山形あれこれ

②山形市は町人の町

山形城下の町人町は、江戸時代を通して三十町を数えました。その殆どは最上時代に成立。城下町には南北に走る羽州街道を取り込み、その街道沿いに南から順に五日町・八日町・十日町・七日町など市日を冠した町の名前が並びます。中心部は東大手門前の七日町になりましたが、羽州街道に併行して東部には職人町が置かれました。檜物町・銀(しろがね)町・桶町・輾燭町・塗師町などで、鍛冶町・胴町などは北部郊外近くに置かれていました。火を扱う職人の町は、火の災いが城下町まで及ばないように、馬見ヶ崎川よりも北に置かれたということ。城下町山形は、家臣が集住する軍事都市として作られ、政治・経済の中心でもあったため羽州街道以外にも街道が四方に発達してました。仙台方面には笹谷街道・庄内方面には六十里越街道・置賜の荒砥方面へは狐越街道となり、いずれも山形を起点としていたのです。

城下町は軍事的・政治的な要請を優先して短期間で作られたようですが、経済的な条件も稼働しなければ維持していくことはできません。山形城下の各町の運営で注目されるのは、その成立期から田畑にかかる石高をもっていたこと。七日町は四一・二石余り。これらの田畑は山形城下町の周辺に散在していたのです。この状態は全国的に見ても珍しいことのように、このような状況は城下町建設期の事情を反映したものとみられ、山形城下町の建設が周辺の開発と同時に城下町の町人も参加して進められたことを示しています。山形城下町を流れる笹堰・御殿堰・八ヶ郷堰が周辺農村だけではなく、城下町人にも深い関係があったのはそのためです。

漆師町 橋町 蔵町 材木町 蔵町

次号の発行は一月七日です。来月も皆様と紙面でお会いできるのを楽しみにしています。